

館報

はだ



平成 29 年 1 月 1 日 現在

世帯数	5,999 戸
人口	15,693 人
男	7,584 人
女	8,109 人

町内公民館対抗

マレットゴルフ大会



波田地区 町内公民館 対抗マレットゴルフ大会が、11月13日(日)午前9時30分開始で開催

されました。下島マレットゴルフ場・上川原マレットゴルフ場の2会場に分かれ、それぞれ下島会場に10チーム、上川原会場に9チームの参加がありました。

昨年度は雨で中止となりましたが、今年度は晴天に恵まれ、初めて開催の運びとなりました。

各区4人の選手がバラバラの組に分かれ、それぞれの打数の合計で順位が競われました。



各区ベテランから初心者まで、老若男女が参加して、ベテランが初心者に打ち方を教えたりして、和気あいあいとした雰囲気、ゲームは進みました。

コースや組によって、一人が失敗すると意外と組全体で失敗する人が多くなったり、良いスコアが出るときには、全員が良いスコアになる場面が見受けられました。

初心者は何も考えず思い切り良く打ってカップインするのに、かえってベテランが考えすぎからか、打ち損じてカップインできないというような場面もあり、「初心忘るべからず」を体感したようでした。

また、観戦者も見ているよりは実際にプレーしている方が楽しめそうなので、来年もマレットゴルフ大会が開催されるならば、是非参加してみたいと思います。

パイプオルガンの世界

皆さん、パイプオルガンをご存知ですかね。ピアノのように鍵盤があり、何本ものパイプに空気を通して音を出す、とにかく大きな鍵盤楽器です。外観は楽器というより古代ローマの芸術的な建物を



という意見もありました。

上川原マレットゴルフ場は、梓川河川敷にあり、河岸段丘を利用した坂があつたり、巨石がコースに配置されたりして、野趣に富んだコースで、起伏も複雑に連なっていて、プレーして面白いと思

結果は次のようになります。

下島会場 優勝22区、準優勝1区、第3位3区。上川原会場 優勝23区、準優勝10区、第3位20・27区合同。以上初めての開催でしたが、マレットゴルフは誰もが楽しめるスポーツですので、今後も続けていけば参加者も増えて、盛況な大会になるのではと思います。



思わせ、その音色は音域の広さもあり、とても神秘的で奥が深いのです。そのパイプオルガンを、実際に見てさわって音を出してみよう！という企画が波田公民館教養講座であり、興味津々で参加してみました。

場所は松本市音楽文化ホール。ここのメインホール正面に据えられているパイプオルガンは、県内唯一のコンサート用パイプオルガンだそうです。4階構造になっていて、パイプの本数は3000本余り。表側に見える大小様々な100本余りのパイプを見ても驚いてしまうのに、その30倍ものパイプがオルガン裏側の1階から4階までの間にあるとお聞きし、想像以上の本数にビックリしました。1本のパイプで1つの音を出すことができ、パイプの本数だけ音が出せるということです。

実際にワクワクしながら触ってみると、鍵盤のタッチ

は思っていたよりも軽く、それとは反対にホールに響く音色は重厚感がありました。パイプオルガンの裏側も少し見学させていただき、空気を送るダクトや鍵盤とパイプを結んでいる構造を間近で見学することができました。1時間という短い時間の中で、実際に触って音を出してみたり、全体の説明をお聞きしたり、またピアノの歴史についてのDVDも見せていただきました。

講座の最後には、オルガニストの原田靖子さんの演奏もありました。パイプオルガンで奏でられるメロディーは、オーケストラの演奏のようにホールいっぱい響き渡り、重厚で迫力のある音色に思わず聴き惚れてしまいました。

今回の講座を通して、パイプオルガンの歴史や構造など知らなかったことや発見が沢山あり、とても有意義で贅沢なひとときでした。今度は是非別の機会に、パイプオルガンのコンサートに出掛けてみたいと思いつつ、「ちよっとのぞいてみましたパイプオルガンの世界」を終わりにしたいと思います。



秋の小さな芸術家



味覚の秋、芸術・スポーツの秋となった10月。皆様どの様な秋を過ごされましたか？

私は、芸術の秋を求め、新潟市内に住む孫の幼稚園の作品展に出掛けて来ました。仕事や日々の生活に追われ、今まで行事も見てあげられなかったのですが、今年は2人姉弟のお姉ちゃんは年長最後の、弟は年少初めての作品展となりました、思い切って出掛けることにしました。



幼稚園に到着したのは正午過ぎでしたが、沢山のご家族で賑ってました。年少組から年長組それぞれのテーマで個人制作、学年での協同制作の作品が色鮮やかに飾られていました。年少は、好きな絵画を2点と水族館をテーマに、ビーズなどで飾ったビニールのお魚や、皆で作ったビニールという大きなカニやイルカ。孫が作ったお魚は、長細く何とも奇妙な物でしたが、嬉しそうに制作過程をお話してくれました。下の子は4歳になり、どんな絵を描くのかと思いが

ら探すと、パパが大好きな弟は、2枚ともパパを描いた絵でした。パパも嬉しそうでした。

6歳になったばかりのお姉ちゃんは、普段はマイペースでボーっとしていることが多いようですが、制作過程を撮った写真や、先生方が作ってくれた解説を見ると、いつもとは違った何とも真剣な表情で取り組んでいる姿がありました。年長組は、春から小学生ということもあり、廃材を利用して「大好きな幼稚園」という大作を作り上げていました。段ボールで作った大きな園舎や園バス。と思えば、プールや園庭で遊ぶ小さな子どもたちの人形。版画も細かい模様が彫られ、絵画は「くもとあさつゆ」という題名のダイナミックな絵でした。年少の頃は、顔から何から全てまん丸で、なんとも子どもらしい絵を描いておりました子が、こんな絵を描けるようになって、お友達と協力し大きな事も出来るようになったんだと、成長を感じました。



そんな孫たちも、この冬松本に越して来ることになりました。忙しい日々になりそう

ですが、これからは一緒に市のイベント等に出掛けられたらと、今から楽しみます。芸術の秋を楽しんだ後は、お寿司やへぎそばで食欲の秋もしっかり満喫させていただきます。



10月30日(日)に7区公民館のバスハイクが実施されました。このバスハイクは、2年に1回実施される恒例の事業であり、また7区公民館の最大行事でもあります。

今年、「世界遺産富岡製糸場見学と磯部温泉の旅」と銘打って参加者を募ったところ、48名の区民の皆さんに参加をいただき、楽しい親睦バスハイクとなりました。

富岡製糸場では、2班に分かれて専任のボランティアガイドの方をお願いして見学することとなりました。見学は国宝の東置繭所・西置繭所・繰糸所、そして重要文化財の検査人館・女工館・首長館(ブリュナ館)等を、1時間かけ工場の歴史と建物の説明を聞きました。

富岡製糸場は明治5年に官営工場として創業された工場



で、やがて民間の企業へと払い下げとなりました。しかし、操業停止までの115年間にわたり休むことなく製糸工場として活躍し続けたこと、そしてその間一貫して生糸の生産が行われ、操業停止後も今日までほとんど旧状を変えることなく保存管理されてきたことにより、建造物は創業当初のままに残されています。

このように富岡製糸場は、ヨーロッパの技術と日本独自の工法が融合してできた世界最大規模の製糸工場であり、近代日本を象徴する建造物を見学することができ、大変勉強になりました。



富岡製糸場見学の後は、磯部温泉にて昼食をいただきました。帰りの車中でも、昼食時からの親睦が続いておりました。今回のバスハイクは、若者に大勢参加していただいたため、年代を超えた相互交流と親睦を図ることができ、大変有意義な行事となりました。

富岡製糸場見学の後は、磯部温泉にて昼食をいただきました。帰りの車中でも、昼食時からの親睦が続いておりました。今回のバスハイクは、若者に大勢参加していただいたため、年代を超えた相互交流と親睦を図ることができ、大変有意義な行事となりました。



「元氣ですか」「元氣が一番」。突拍子もない始まりで申し訳ありません。アントニオ猪木さんの名ゼリフを拝借いたしました。年が明け、寒さを厳しく感じる日々、皆様は元氣にしていますか。人生何ごとにも元氣は必要ですよ。子どもは元氣であることが仕事ですが、大人は元氣をもらいたいと思う方が多いのではないのでしょうか。さて、皆様は元氣をどんな形で吸収されていますか。いろいろな方法があると思いますが、幸せを感じることで元氣になるのもありでしょう。見たり・聞いたり・触れたり・味わったり・嗅いだりの5感からの幸せ。話したり・話されたり・じゃれ合ったりの対人絡みからの幸せ。趣味や運動の達成感からの幸せ。幸せを感じる瞬間やその形は、無限にあると思います。

幸せは降ってくればラッキーですよ。待っていても探しても、なかなか出会うものではないかもしれませんが、早くを出して1分でも意識すれば、大中小限らず何かしら幸せに出会っていることを幸せと感じる余裕も欲しいですね。幸せで元氣になることをお祈りします。ご愛読ありがとうございました。